

令和 8 年度 香川県 英語教育改善プラン

目標

伝えたいことを伝える力を有し、グローバル社会で活躍できる人材の育成

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☐ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☐ AIの活用
 ☐ その他

(パフォーマンステスト含む)

(専科教員含む)

(AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①小中連携したカリキュラムや学習到達目標などの設定をしている割合が増加した。

(参考：R5:63.5%)

独自調査より

②児童が1人1台端末を活用した授業（全ての授業のうち50%以上）の割合が増加した。

(参考：R5:39.0%)

英語教育実施状況調査より

未だ改善が必要な点

①「授業における児童の英語による言語活動時間の割合」が、令和4年度から5年度にかけて減少し、全国値の94.4%を下回っている。（授業の半分以上の時間、言語活動を行っている学校 参考：R5:90.3%）

②英検ESGの結果から、質問に答えたり、文を読んだりすることの正答率が低い。

2. 要因分析

①県教育委員会主催の小中連携推進協議会において、異校種間の情報交換、CAN-DOリストを活用したワークショップ等を行ったことで、設定率が増加したと考えられる。

②ICTをテーマとしたスキルアップ研修を実施し、好事例の共有やフリーソフトを用いた教材づくり体験等の場を確保したことで、積極的な活用が進みつつあると考えられる。

①小中連携推進協議会や教育課程運営改善連絡協議会において、「言語活動」と「練習」の違い等の観点から、言語活動の在り方について共通理解を図ったことで、言語活動の捉え直しにより、数値が低下したと考えられる。

②「聞くこと」、「読むこと」の活動において、繰り返し練習はしているものの、その表現をどんな時に使うのかを児童が意識できていないことが考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①①②外部検定試験を活用した授業改善の推進（小中連携）

・令和6年度より、県内の希望する市町立小学校（第6学年）（※令和7年度より、県内全ての市町立小学校が参加）において、年間1回、外部検定試験を模したアセスメントを実施し、小学校卒業段階の児童の英語力を客観的に見取り、指導改善の方向性を見出す。

・小6対象のアセスメントを一つの指標とし、小中連携推進協議会において、小中学校の英語担当教師が小学6年生から中学1年生段階での指導の在り方について協議する場を確保し、小中学校間のスムーズな接続を目指す。

①言語活動を通した指導の充実

・小中連携推進協議会や教育課程運営改善連絡協議会等の研修を通して、mextchannelに掲載されている動画視聴の場を確保するなど、効果的な言語活動の在り方について共通理解を図る。また、言語活動における具体的な手立てやしかけについて情報交換する場を設ける。

・言語活動を通した指導の充実を目指し、本県が指定するモデル校の特色ある取組みや総合授業リーダーによる実践等を発信する。

【香川県教育委員会義務教育課HP】

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimukyoiku/syokai/organization/kfvn.html>

令和 8 年度 香川県 英語教育改善プラン

目標

即興的な問答ができる発信力を有し、グローバル社会で活躍できる人材の育成

○CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R7 : 48.2% ⇒ R8 : 53.0%)

☒ 言語活動
 ☐ 指導と評価の一体化
 ☒ 教師の英語力・指導力
 ☒ 校種間連携
 ☐ ALTの参画
 ☐ ICTの活用
 ☒ AIの活用
 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①英検IBAにおける同一生徒の平均正答率を比較すると、文法、読解ともに向上した。

※ () は前年度結果

3年文法72(69)%, 読解55(52)%
2年文法77(61)%, 読解63(56)%

②モデル校生徒のスピーキングミニテストにおけるのCEFR-Jの評定結果が向上した。

(52.1%がCEFR-Jランク上昇)

未だ改善が必要な点

①令和5年度全国学力・学習状況調査の結果から、「読むこと」、「聞くこと」、「書くこと」の正答率が全国値を下回った。生徒質問紙調査においては、英語学習への意欲が令和元年度以降、低下傾向にある。

②「授業における英語担当教師の英語使用状況」が令和4年度から5年度にかけて減少した。

(発話の半分以上を英語で行っている学校 参考:R5:62.7%)

2. 要因分析

①県教育委員会主催の小中連携推進協議会において、英検結果を踏まえ授業改善に向けた講話、協議等を実施したことで、各学校の授業の改善が進んだと考えられる。

②オンライン国際交流の機会の設定と、それに向けたAIを活用した授業改善により、生徒の発話の能力が高まったと考えられる。

①語彙数の増加等に伴う生徒の学習意欲の低下や、言語活動を通じた指導の充実に向けた授業改善が十分に進んでいないことが考えられる。また、「聞くこと」、「読むこと」の活動においては、活動の目的が不明確なまま、英文の内容を理解する学習に留まっていることが考えられる。

②教師の英語力が全国値を上回っていることから、多くの教師が十分な運用能力を有すると思われる。英語使用に関する情報交換の機会が少ないため、その有用性や指導の具体を見出すことが難しいと考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①②外部検定試験を活用した授業改善の推進 (小中連携)

・令和6年度より、市町立中学校(全学年)及び市町立小学校(第6学年)において、年1回、外部検定試験を実施し、実施後は、結果分析のための研修等を実施し、効果的な指導改善につなぐ。

①委託業者支援によるオンライン国際交流及び香川大学連携による留学生との対面交流を通じた発信力強化と授業改善の推進

・モデル校2校において、オンライン交流の機会を設定し、交流当日に向けてAIを活用した授業改善を進めることにより、生徒の発信力強化を図る。2年間の研究の成果として、オンライン交流を組み込んだカリキュラムと、オンライン交流実施マニュアルを作成し、県下に横展開する。

・モデル校1校において、香川大学への留学生との対面交流の機会を設定し、交流に向けてAIを活用した授業改善を進めることにより、生徒の発信力強化を図る。

※授業公開や成果報告を行い、言語活動を通じた指導の工夫、単元構成の工夫等について普及を図る。

①②上記を踏まえた授業改善の推進

・教育課程運営改善連絡協議会、香川の教育づくり発表会、小中連携推進協議会等の研修を通して、言語活動を通じた指導の充実を目指し、本県が指定するモデル校の特色ある取り組みや英検結果を踏まえた授業改善案等を発信する。また、教師の英語使用について他県の状況や生徒の英語力との相関関係について共通理解を図る。

【香川県教育委員会義務教育課HP】

<https://www.pref.kagawa.lg.jp/kenkyoui/gimukyoiku/syokai/organization/kfvn.html>

令和 8 年度 香川県 英語教育改善プラン

議論・討論できる発信力を有し、グローバル社会で活躍できる人材の育成

- CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R3:40.8% ⇒ R4:40.2% ⇒ R5:45.7% ⇒ R6:48.0% ⇒ R7:47.8% ⇒ R8:57.0%)
○生徒の英語による言語活動の割合 (R3:53.8% ⇒ R4:47.5% ⇒ R5:59.5% ⇒ R6:51.6% ⇒ R7:70.0% ⇒ R8:75.0%)

目標

- ☒ 言語活動 ☒ 指導と評価の一体化 ☐ 教師の英語力・指導力 ☐ 校種間連携 ☐ ALTの参画 ☐ ICTの活用 ☐ AIの活用 ☐ その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

- ①CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合が増加
(R4:40.2%⇒R5:45.7% ⇒R6:48.0%⇒R7:47.8%)
- ②生徒の英語による言語活動の割合、5割以上を維持
(R3:53.8% ⇒ R4:47.5% ⇒R5:59.5% ⇒ R6:51.6%)

未だ改善が必要な点

- ①パフォーマンステストの実施状況（話すこと・書くこと両方）に改善の余地がある。
(R4:46.1%⇒R5:47.8% ⇒R6:45.7%)
- ②ICTの活用に増減が見られるため、引き続き改善の余地がある。
(R4:76.7%⇒R5:93.3% ⇒R6:80.0%)

2. 要因分析

- ①各科目の指導と評価の年間計画において、パフォーマンステストを記載し、実施したことで、生徒の英語による発信力が増加したと考えられる。
- ②英語科主任会、学校訪問、教育課程運営改善研究会等において、統合的な言語活動の重要性を共有したことで、言語活動の割合が 5 割以上に維持されていると考えられる。

- ① 2、3 年に比べて、1 年での実施率が低い傾向にあることが要因と考えられる。また、科目による実施率のばらつきが大きいことも要因と考えられる。

- ②ICTの活用に不慣れな教員が、ICT機器の活用に躊躇していることが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

①パフォーマンステスト実施の推進

- ・各学校から提出された「指導と評価の年間計画」において、パフォーマンステストの記載がないものについては、学期ごとに 1 回計画するように助言する。
- ・3 月に実施した「令和 7 年度スピーキングテスト実施状況調査」の結果を 5 月英語科主任会で共有し、スピーキングテストの効果的な実施を図る。
- ・パフォーマンステストの推進を図るため、英語科主任会、学校訪問等で、パフォーマンステストの実施について周知する。また、各学校で実施しているパフォーマンステストについて、情報を共有する。

②ICT活用の推進

- ・授業において、効果的なICTの活用を促進するため、学校訪問時の研究授業におけるICT活用について、授業後の合評会で共有する。
- ・6 月の春季大会において、昨年度の教育課程運営改善研究会のグループ協議で「英語の授業における効果的なICTの活用」をテーマに協議した授業事例を参考にするよう、情報を共有する。
- ・「かがわDX教員ハブ」（令和 7 年度 D X ハイスクール域内横断的な取り組み採択事業）「デジタル技術を活用した授業改善や授業でデータサイエンス・A I 等の活用を目指す教員」（23名の教員が参加）の育成を目的に、グループ研修会、県外先進地視察や D X 採択校視察などを通して学んだ知見を授業改善に活用する。

香川県教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	47	45.7	50	48	54	47.8	57		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	20	18.5	20	22.3	23	21	27		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	80	59.5	65	51.6	70		75		80		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	80	47.8	50	45.7	55		60		65		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	50	54.1	60		63		66		70	
		達成状況の把握(%)	80	45.9	50		53		56		60	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	85	84.4	85	86.6	87	88	89		90		
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	80	37.8	40	28.2	45	33.9	50		55		

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	50	44.5	50	46.7	50	48.2	53		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	90	73.5	80		83		86		90		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した学校の割合(%)	95	81.1	90		95		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	70	66.7	75		80		85		90	
		達成状況の把握(%)	80	100	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	55	49.7	58	46.4	60	65.3	66		68		
	⑥英語担当教員が授業における発話の半分以上を英語で行っている割合(%)	90	62.7	75		80		85		90		

		2023		2024		2025		2026		2027		
校種		指標内容	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	80	68.7	70		75		80		85	
		公表(%)	30	46	50		55		60		65	
		達成状況の把握(%)	65	57.3	70		75		80		85	